

2017年3月期第2四半期決算説明



2016年11月21日

山一電機株式会社

(証券コード 6941)

お蔭様で“創立60周年”を迎えました！

2



11月1日に創立60周年を迎えました。

これもひとえに

皆様のご支援とご指導の賜物と深く感謝申し上げます。

◆ ご説明内容

【1】FY2016/1H業績結果について

【2】FY2016通期予想について

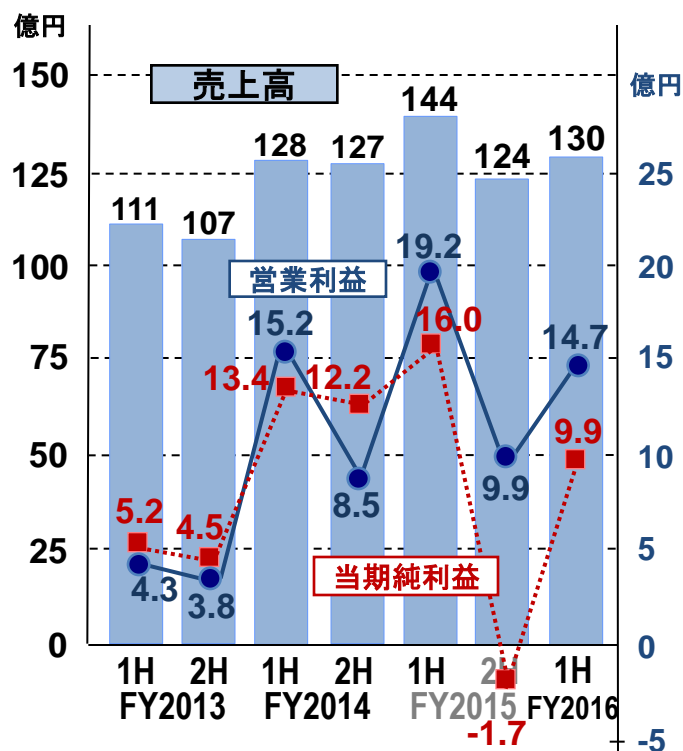
FY2016/1H業績結果について

円高の影響により前年同期比減収減益となったが、利益面では期初予想を達成

為替レート	2015年1H	2016年1H	
ドル :	121.80 円	105.29 円	13.6% 円高
ユーロ :	135.07 円	118.15 円	12.5% 円高

海外売上高比率	2015年1H	2016年1H	
	75.8 %	78.7 %	2.9% 増加

単位: 億円

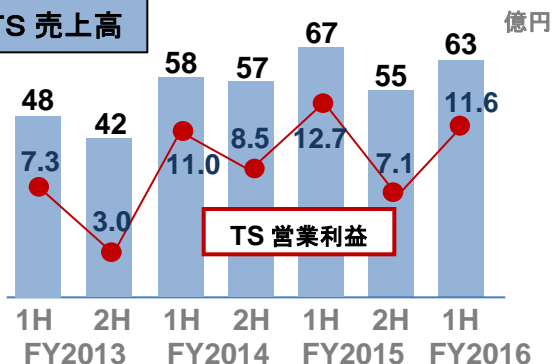


	FY2015/1H		FY2016/1H				前年同期比	期初予想比
	実績	売上比	実績	売上比	期初予想	売上比		
売上高	143.8	—	130.0	—	135.4	—	▲9.6%	▲4.0%
売上総利益	51.1	35.5%	41.3	31.7%			▲19.2%	
販売管理費	31.9	22.2%	26.6	20.5%			▲16.5%	
営業利益	19.2	13.4%	14.7	11.3%	11.8	12.1%	▲23.6%	24.3%
営業外損益	0.3	—	(注1)▲1.3	—			—	
経常利益	19.5	13.6%	13.4	10.3%	11.7	12.7%	▲31.4%	14.6%
特別損益	0.6	—	0.0	—			—	
当期純利益	16.0	11.1%	9.9	7.6%	9.7	10.6%	▲38.7%	1.5%
EPS (円)	69.00 円		44.55 円		43.06 円		▲24.45	1.49
BPS (円)	762.10 円		761.92 円				▲0.19	
ROE (%)	9.3 %		5.9 %				▲3.4	

(注1) 為替差損 1億円

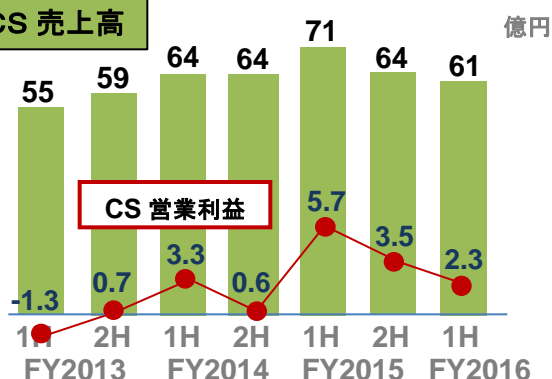
TS事業を柱に堅調に推移

TS売上高

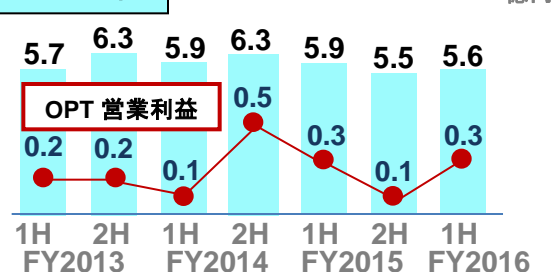


- ◆TS: スマホ関連の落込みがあったが、メモリ・車載向けバーンインソケットでカバー
- ◆CS: 通信インフラ・車載向けが堅調に推移したが、円高の影響や生産拠点再配置費用が嵩み利益を圧迫
アミューズメント向けYFLEX製品販売が低調
- ◆OPT: 医療機器・光通信向け薄膜フィルタ製品が堅調

CS売上高



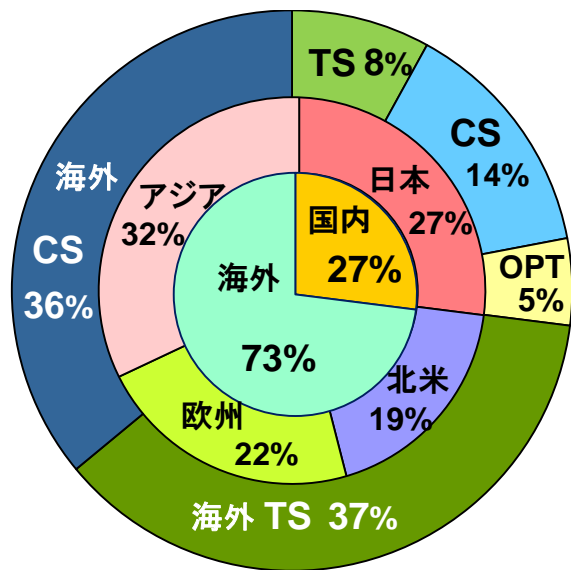
OPT売上高



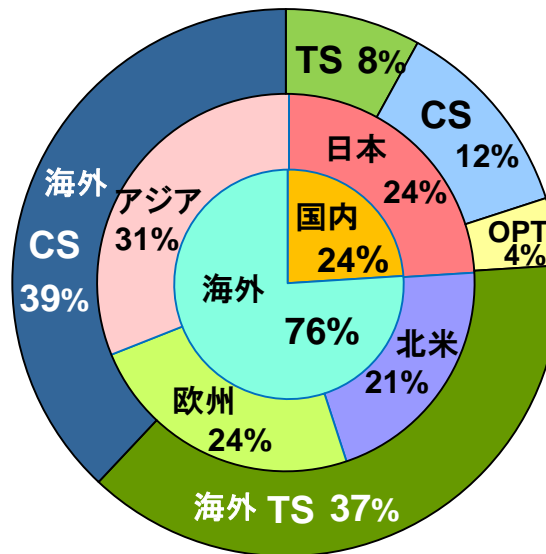
単位: 億円

		FY2015	FY2016		前年同期比	期初予想比
		1H	1H	期初予想		
TS事業 (テストソリューション)	売上高	66.5	63.0	66.2	▲5.3%	▲4.9%
	営業利益	12.7	11.6	9.3	▲9.0%	24.6%
CS事業 (コネクタソリューション)	売上高	71.4	61.4	63.5	▲14.0%	▲3.3%
	営業利益	5.7	2.3	2.4	▲58.8%	▲2.5%
OPT事業 (光関連)	売上高	5.9	5.6	5.7	▲4.5%	▲1.2%
	営業利益	0.3	0.3	0.0	16.8%	300%
Other	営業利益	0.5	0.4	0.1	—	—
Total	売上高	143.8	130.0	135.4	▲9.6%	▲4.0%
	営業利益	19.2	14.7	11.8	▲23.6%	24.3%

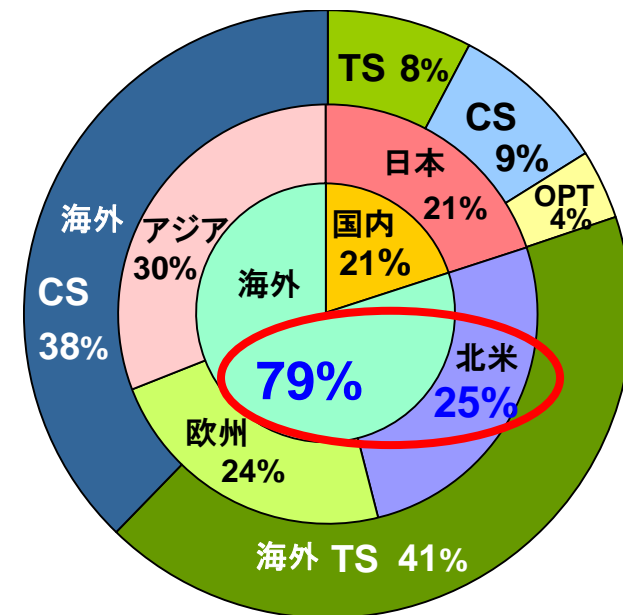
◆ グローバル戦略（伸びる地域・市場、元気な顧客、儲かる製品）により海外顧客開拓が進む



FY2014



FY2015



FY2016/1H

	FY2012	FY2013	FY2014	FY2015	FY2016/1H
海外売上高比率 全体	62%	70%	73%	76%	79%
〃 TS事業	72%	79%	82%	82%	83%
〃 CS事業	61%	69%	72%	77%	81%

※ FY2013より事業構造改革に着手

F Y2016/1Hの貸借対照表

現預金は自己株取得により45億円にとどまる。自己資本比率 64.8% (前期末65.8%) 6

	2016. 3末	2016. 9末	前期比増減	(単位: 億円)
流動資産	136.0	134.5	▲1.5	
現金及び預金	43.1	44.7	1.6	← 自己株取得6億円で1.6億円増にとどまる
受取手形・売掛金	47.8	48.4	0.6	
棚卸資産・その他資産	45.1	41.4	▲3.7	← 繰延税金資産1.5億円など
固定資産	124.8	119.8	▲5.0	
有形固定資産	100.1	96.1	▲4.0	← 建物・機械等の減価償却4億円
無形固定資産	1.3	1.3	0.0	
投資・その他資産	23.4	22.4	▲1.0	← 投資有価証券の評価額減1億円
資産合計	260.8	254.3	▲6.5	
流動負債	75.7	71.6	▲4.1	
支払手形・買掛金	16.7	16.8	0.1	← 借入金の返済
短期借入金	36.7	36.3	▲0.4	
その他負債	22.3	18.5	▲3.8	← 未払法人税・賞与引当金の減少
固定負債	13.2	17.7	4.5	← 長期借入金・リース債務の増加
負債合計	88.9	89.3	0.4	
株主資本	175.2	175.6	0.4	← 配当実施・自己株取得分の9億円の減少、 四半期純利益10億円の計上で0.4増加
その他の包括利益累計額	▲3.5	▲10.9	▲7.4	← 為替換算調整勘定7.4億円増加
純資産合計	171.9	165.0	▲6.9	
負債・純資産合計	260.8	254.3	▲6.5	

自己株式取得(11億円)で現金残高が減少

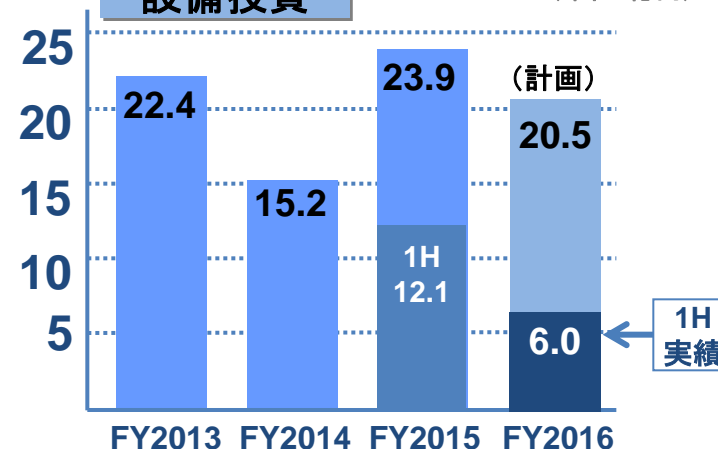
(単位:億円)

	FY2015 1H	FY2016 1H	前期比
営業活動による キャッシュ・フロー	26.8	13.2	△13.6
税引前利益	20.1	13.4	△6.7
減価償却費	7.6	7.6	0.0
その他	△0.9	△7.8	注1 △6.9
投資活動による キャッシュ・フロー	△11.1	△5.3	5.8
固定資産取得	△12.0	△5.8	6.2
その他	0.9	0.5	△0.4
フリー・キャッシュ・フロー	15.7	7.9	△7.8
財務活動による キャッシュ・フロー	△7.8	△2.8	5.0
現金・現金同等物			
期末残高	53.3	44.7	△8.6

注1: 前期比で売掛債権の3.5億円増、棚卸資産 2億円増など

設備投資

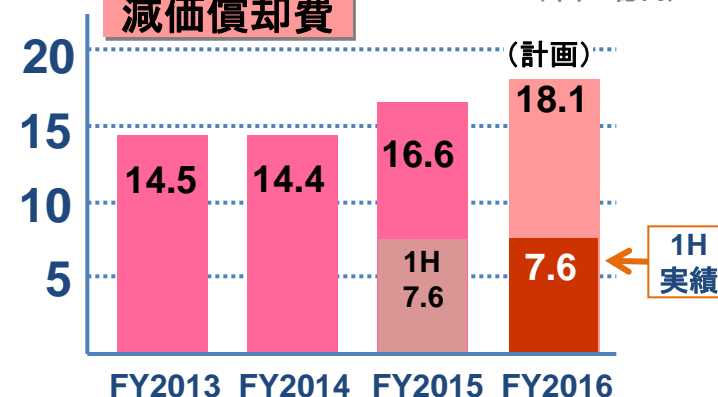
(単位:億円)



※ 設備投資額は、有形+無形固定資産合計の
キャッシュフローベース

減価償却費

(単位:億円)

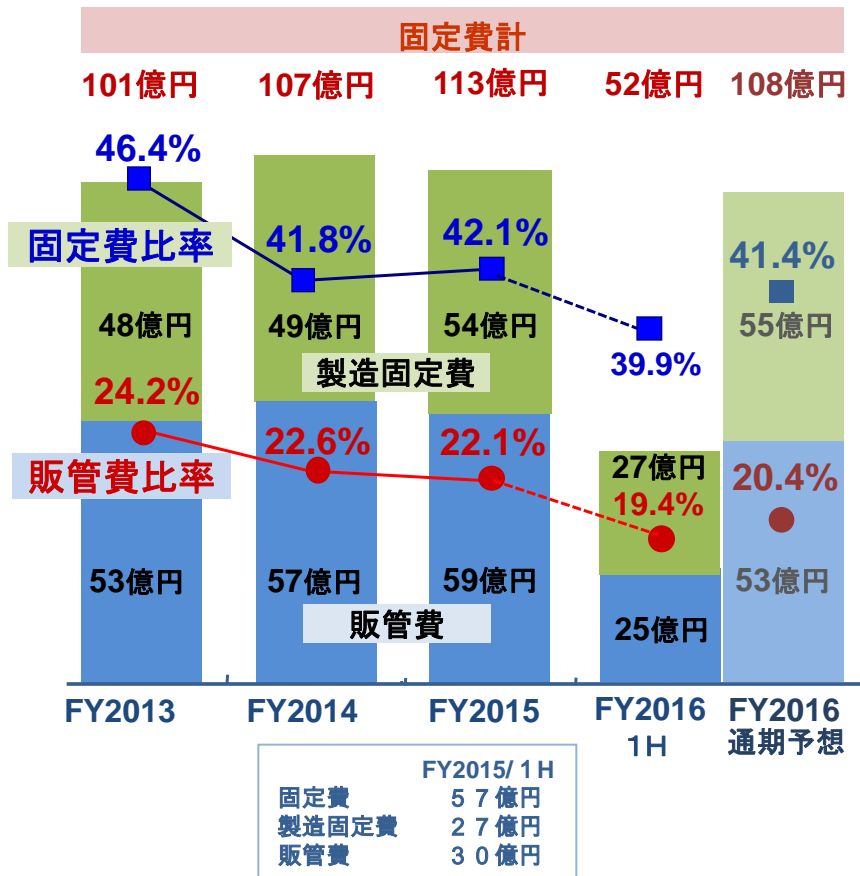


※ 研究開発費 FY2016/1H 7.2億円 (FY2015/1H 7.4億円)

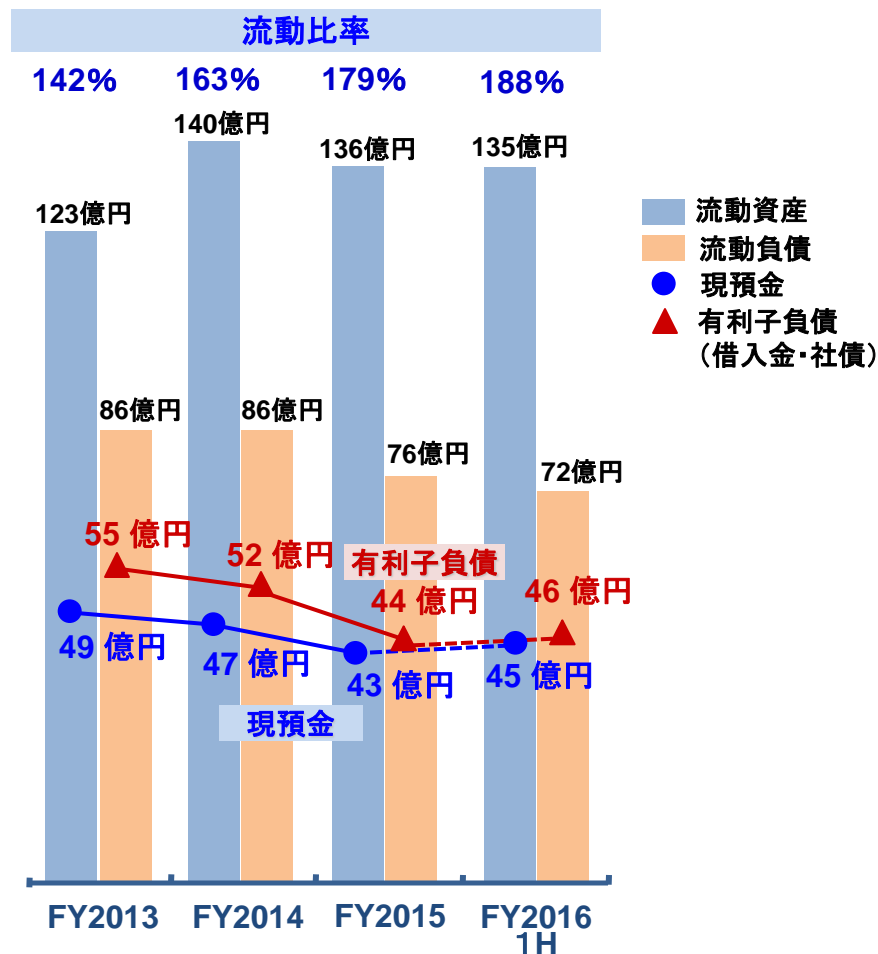
固定費比率 前期末比 2.2ポイント低下

販管費比率 前期末比 2.7ポイント低下

◆ 販管費 FY2015/1H 30億円 FY2016/1H 25億円 5億円減



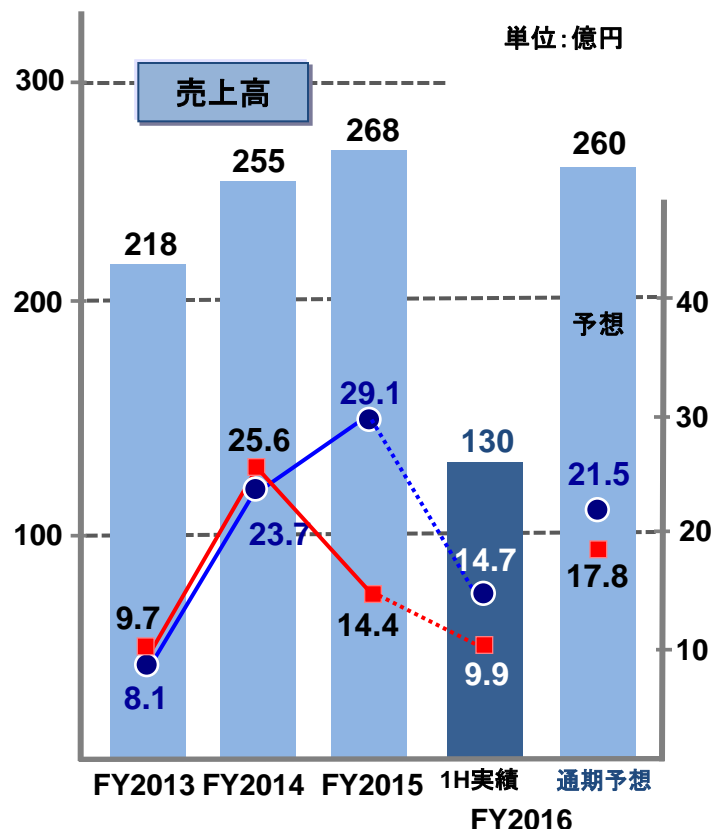
現預金 44.7億円 < 借入金+社債 45.6億円



2Hの為替 1\$=101円 と想定し、現時点では通期予想(5月13日公表)据置き

◇ 5月13日公表の予想に対し、上期実績の進捗率は50%以上であります、下期の半導体・通信インフラ・車載関連向け需要は堅調と見込まれるものの、為替動向や受注見通しが不透明であることから、通期予想は据置きとしました。

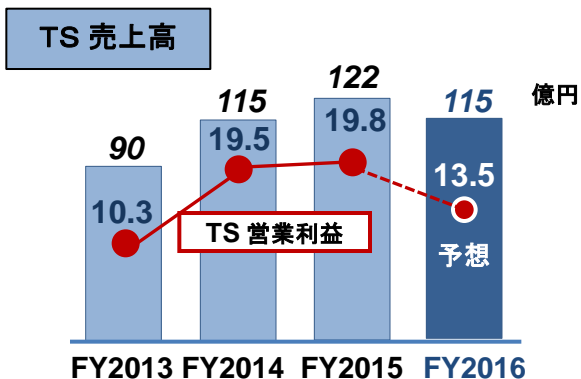
● 営業利益
■ 当期利益



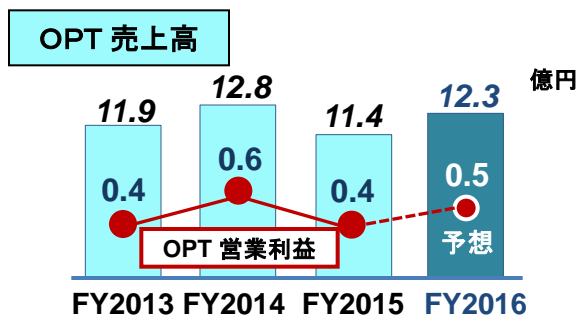
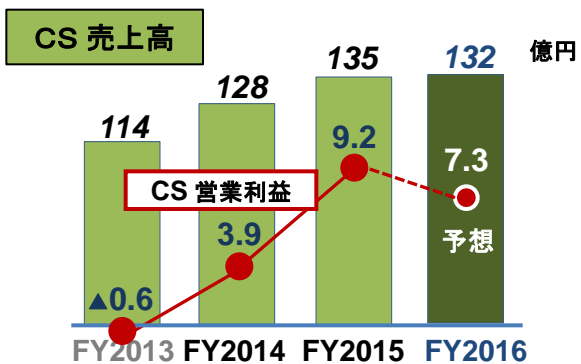
	FY2015 2H 実績	FY2016 2H 期初予想	前期比	FY2015 通期 実績	FY2016 通期 期初予想	前期比	FY2016 期初予想 上期進捗率
売上高	124.4	124.6	0.2%	268.2	260.0	△3.1%	50.0%
営業利益	9.9	9.7	△2.1%	29.1	21.5	△26.2%	68.2%
経常利益	6.4	9.6	49.3%	26.0	21.3	△18.0%	63.0%
当期純利益	△1.7	8.1	黒転	14.4	17.8	23.7%	55.3%
EPS (円)	△7.05	36.81	+43.86	61.95	81.36	+19.41	—
配当 (円)	—	—	—	15.0	15.0	0.0	—

2015年9月末 2016年3月末 2016年9月末
 ドル: 119.96円 112.68円 101.12円
 ユーロ: 134.97円 127.70円 113.36円

厳しい状況が継続すると予想。「事業構造改革」を引き続き推進



- ◆TS: テスト ソケット……堅調に推移する見込み
バーンインソケット・車載半導体向け引き続き堅調、LPDDR4は低調
- ◆CS: 通信インフラ・車載・産機向けコネクタは堅調と見込むが、地域差大
YFLEXはアミューズメント向けが徐々に改善の見込み
- ◆OPT: 医療機器・光通信向けフィルタ製品は引き続き堅調と見込む

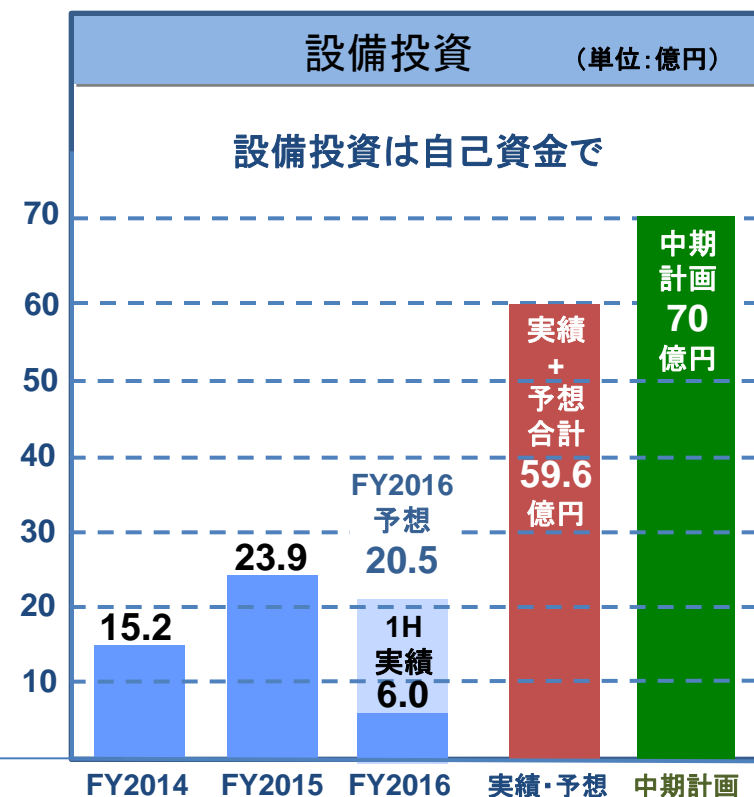
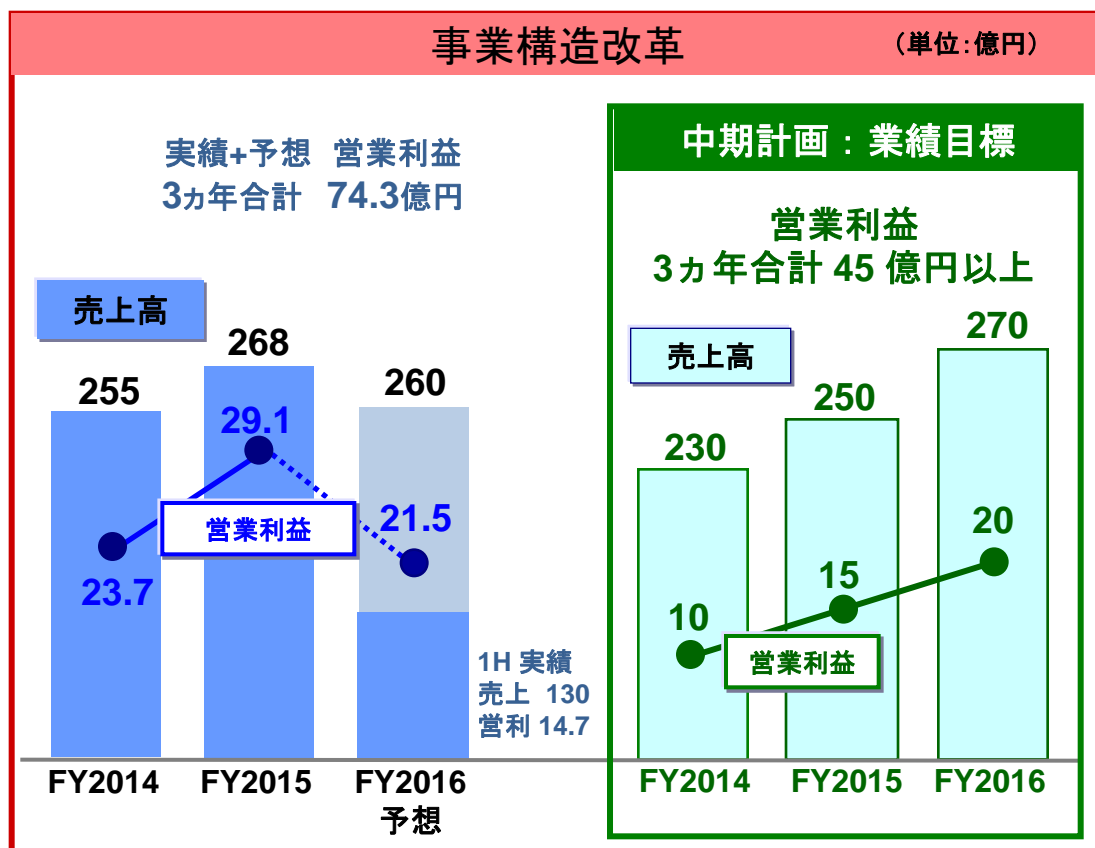


単位: 億円

		FY2015 2H 実績	FY2016 2H 期初 予想	前期比	FY2015 通期 実績	FY2016 通期 期初 予想	前期比	FY2016 期初予想 上期 進捗率
TS事業	売上高	55.0	49.2	△10.6%	121.5	115.4	△5.0%	54.5%
	営業利益	7.1	4.2	△40.5%	19.8	13.5	△31.8%	85.9%
CS事業	売上高	63.9	68.8	7.7%	135.3	132.3	△2.2%	46.4%
	営業利益	3.5	4.9	42.0%	9.2	7.3	△20.2%	32.1%
OPT事業	売上高	5.5	6.6	19.8%	11.4	12.3	7.9%	45.8%
	営業利益	0.1	0.5	284.6%	0.4	0.5	25.0%	62.0%

営業利益 74.3億円(65%増)、設備投資 59.6億円(15%減)の予想

◇ 目標 連結営業利益3カ年合計 **45億円以上** 設備投資額3カ年合計 **70億円**



※中期計画の為替レート
1\$ = 105 円で試算

ご清聴ありがとうございました。

(第3四半期決算発表日 2017年2月3日15:00予定)

問合せ先: 経営管理部広報課 笹川康彦

TEL: 03-3734-7661 FAX: 03-3734-0120

<http://www.yamaichi.co.jp>

E-mail: sasagawa@yamaichi.co.jp

※注意事項

本資料は、2016年11月4日現在の当社グループの事業内容、経営戦略、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に記載した意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。